



おおぞら

第198号

2020年9月1日発行

発行責任者 荻野和功

編集者 木部哲也

<http://www.seirei.or.jp/mikatahara/oozora/>

最近の短期入所(ショートステイ)状況について

木部 哲也

おおぞら療育センター(以下おおぞら)は、2011年に増床して以来、入所機能に加え大きな在宅支援機能を持ち在宅支援を行っています。運営方針として、「十分な在宅支援機能を持つこと」として「常時入所施設に空きがあること」により、できるだけ長く在宅で過ごして、在宅が困難となったとき速やかに入所ができるよう支援していく、ことを掲げて実践しています。現在、おおぞらには、定床150床で空き床20床の短期入所(ショートステイ)枠があり、静岡県西部地区と愛知県東三河地区を中心に地域のショートステイの要望には、できる限り応えていきたいと考えております。その一方で今後在宅支援のニーズが増え続けた場合にどのように対応していくかは大きな課題です。マンパワーが多くない中で、どのように継続していくか、また、一般医療界の理解不足のなかでどう連

携していくかななどの問題があります。今回は、最近のショートステイの状況について述べたいと思います。まず、全体の登録者数及びそのうち人工呼吸器、先天性心疾患、てんかん重積の頻度が多いなど高度の医療的ケアを要する人たちの推移(カッコ内)ですが、2015年度、299名(28名)、2016年度、311名(41名)、2017年度、315名(50名)、2018年度、316名(64名)、2019年度、326名(76名)と全体数及び、高度の医療的ケアを要する人たちの割合が徐々に増加してまいりました。そのうち実利用者数の推移をみると、1日平均で2016年度18.9名、2017年度18.7名、2018年度18.6名、2019年度18.5名と若干減少傾向にありましたが、その内訳をみると、高度の医療的ケアを要する人たちの割合は4.0名(20.8%)、4.7名(25.0%)、

5.2名(28.1%)、6.2名(33.6%)と徐々に上がってきています。2019年度の登録者数326人の年齢別内訳は、6歳未満が46名(14.1%)、6~18歳145名(44.5%)、18歳以上135名(41.4%)でした。また、326名中76名(23.3%)は高度の医療的ケアを要する方たちで、それを年齢別にみると、6歳未満が46名中33名(71.7%)、6~18歳では145名中34名(23.4%)、18歳以上の135名中9名(6.7%)でした。更に、地域的にみてもみると、静岡県西部が75.5%、静岡県中部が3.1%、静岡県東部0.3%、愛知県東部15.6%、愛知県中部4.6%、神奈川県0.9%となっていました。

これらの数字にも表れているように特に乳幼児において高度の医療的ケアを要する方たちは年々増加しています。単に医療度が高いというだけではなく、個性も高く、複雑な医療への対応に苦慮する場合もあります。これらの方たちは体調が変わりやすく、緊急時の対応など現場には一定の緊張感もあります。現在の制度や施設の体制でどのように対応していくのか大きな問題です。また、成人年齢以後の「かかりつけ医」の問題もあります。例えば、成人年齢に達したのちに医療的ケアが追加された場合などです。普段から、家族とのつながりを持ち、状態把握、投薬管理などに加え、入院医療機関との連携などもスムーズに行われるような体制が求められます。

新型コロナウイルスの流行により、施設の在宅支援にも少なからず影響が出ております。おおぞらは、今後在宅支援を通じて緊急時にも対応できるセーフティネットの役割を果たしていきます。一方、在宅支援の問題は一施設だけで解決するものではありません。地域、あるいは社会全体で考えていかなければならないと思います。



Cさんとの関わりから考えたこと

平塚 信恵

朝、リビングに移動しマットに降りた利用者は、夜のベットの上がりからはだいぶ異なる角度や位置、距離感で周囲を感じ始めます。話し声のする方向に体の向きを変えたり、物音やテレビから流れる音楽に耳を傾けるように視線が動きます。

人の行き来が増えてくる朝のリビングに、Cさんも居室から移動をしてみました。Cさん（横地分類B1）はリビングで飛び交っている様々な言葉の中で、他利



用者への声かけに返事をすることがよくあります。例えば、隣にいるDさんの名前を呼んだり、「Dさん、歯をみがきますね」と声をかけると、タイミングよく

Cさんが「はいっー」と返事をします。思いがけないところからまっすぐな返事が聞こえ、職員が振り返るとCさんはすでにこちらを見てにこやかに笑っています。反対にCさん本人の名前を呼んだときには、目をぎゅゅとつぶったり、視線を外すことがあります。Cさんは自分の名前が呼ばれ、職員が見ていることにも気づいているようです。

また別の場面でCさんは、職員の動きを目で追いつながら、「ちようだい」と自分から声をかけます。「これは、あげられませんか」と職員が返すと、Cさんは表情を緩めながら「ちようだいっ」と言い方を変えています。「ちようだい」で「だめー」と心え、さらに「ちようだいー」「だめー」「ちようだいー」「だめー」を繰り返してきます。「ちようだい」と

いう言葉はその意味合いではなく、Cさんと職員の間でリズムを少しずつ変え受け渡す言葉遊びへと変わっていきます。

このような日常のエピソードから、Cさんは人の言葉の何を聴いているのか、何を理解しているのかを考えてみます。

Cさんは、職員と対面していない状況でも、リビング内の広い範囲にアンテナを張り、声の出所を聞き分けています。自分の名前とそれ以外の名前の理解があり、あえて自分以外の呼びかけに返事をすること、そこから職員とのやりとりが始まる予測や期待感を持つているようです。また「はいっー」という返事が続くような疑問形のフレーズなのかどうかを瞬時に聞き分けています。本を読み聞かせる時のような明瞭な発音でなくても、職員が話す言葉の語尾の形や細かい抑揚から判断をしていることになりま。さらに、言葉の塊を捉え、そのリズムを自分で変化させることや他者との掛け合いを通じ勢が増していくような面白

さも感じているようです。

今、ここにあげたのはCさんが見聞きする世界の理解の一部です。利用者の生きがい活動やよりよい生活を考える時の材料は、日常からかけ離れた特別な場面や時間の中にあるのではないと考えます。日々、繰り返し返されるように見える利用者の行動ややりとりの中こそ、利用者の理解を深めるヒントがあるのだと感じます。そのひとつひとつを丁寧に捉えていきたいと思

活動道具の紹介

① くいしんぼうなおばけの子が次々に食べものを食べては食べていく話で、挿絵がはつきりしている絵本です。初めにペロペロキャンディーをなめると、カラフルでうずまきの形に体が変わってしまいます。くいしんぼうのばけたくんはおかまいたしに、「いいもの、いいもの、みつけた、あ、これもおいしいぞう、うわあ、これもおいしいぞう」と次々に食べていきます。



① 絵本 『ばけばけ ばけばけ ばけたくん』

文・絵：岩田明子 大日本図書

同じような言い回しのリズムの中に、「にょきにょき」や「もんもん」、「シウワシウワ」などのいろいろな擬音語が出てきたり、「ばけばけ、ばけばけ、ばけたくん」といったリズムのよい言葉が出てきたりして、語りのリズムが感じられる絵本です。また、違う擬音語が出てきて面白い、台詞のところまで調子が変わって面白い、ページごとの変化が面白いと感じられる方もいます。

横地分類

「移動機能」、「知的発達」、「特記事項」の3項目で分類し、以下のように表記する。

例：A1-C, B2, D2-U, B5-B, C4-D

知的発達

E6	E5	E4	E3	E2	E1	簡単な計算可
D6	D5	D4	D3	D2	D1	簡単な文字・数字の理解可
C6	C5	C4	C3	C2	C1	簡単な色・数の理解可
B6	B5	B4	B3	B2	B1	簡単な言語理解可
A6	A5	A4	A3	A2	A1	言語理解不可

特記事項

C: 有意な眼瞼運動なし
 B: 盲
 D: 難聴
 U: 両上肢機能全廃
 TLS: 完全閉じ込め状態

移動機能

戸外歩行可	室内歩行可	室内移動可	座位保持可	寝返り可	寝返り不可
-------	-------	-------	-------	------	-------



Aさん(横地分類A4)は手を左右に擦るようにして自分が座っているマットに触れたり、布などの素材を手にするのと自ら布の端を手や足に引っかけ、反対の端を右手で引っ張ったりします。抵抗感や手に触れる素材の感触もよく感じているようです。活動では本人の動きによって音の変化が感

じられるようにキーボードを行いました。キーボードを近くに持って行くときぐに手を伸ばします。普段では力一杯引っ張ったり、擦ったりすることの多いAさんですが、キーボードには優しくそっと指先で鍵盤に触れていました。はじめは同じ場所の鍵盤に触れていましたが、だんだんと低い音や高い音など触れる場所を移動していました。低い音や高い音など音程の違いを感じ、高い音の方が好む音のようでした。高い音の鍵盤

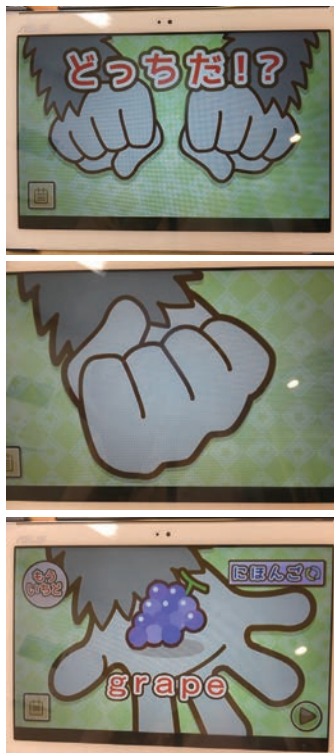
によく触れていました。鍵盤に触れている長さもずつと長く触れている時とポンポンと短く触れている時があり音をよく聞いて触れ方を変えていました。指全体を使い鍵盤の上を滑らせるようにして音を出していることもありました。また音の種類を響く音に変えた時は音の違いを感じ、それまでは笑顔で触れていました。が、真剣な表情に変わりました。

Bさん(横地分類A4)はリビングでテレビがついていると映像をじっと見たり、リビングで流れている音楽を笑顔で聞いたりしていることがありません。日常活動では音と共に変化する画面の変化を感じられるようにタブレットを使って行いました。



「どっちだ!?!」というアプリを行いました。(アプリの詳細については写真参照)まず握った両手が画面に出てきます。そうするとBさんはぐっと画面に顔を近づけてよく見えています。職員が画面にタッチして片手になり効果音と共に手が開きます。握った手が出てきて

アプリ「どっちだ!?!」



手が開かれるまでをBさんは何回も画面に視線を向けてよく見ていました。効果音と共に手が開き手の中の物が現れると笑顔になっていました。不正解で手の中に何も無い時でも不正解の時の効果音が面白いように効果音を聞いて笑顔になっていました。画面に両手がでてきて効果音と共に手が開くまでの1連の画面の変化をよく感じて注目して見えていました。特に手が開く時の効果音に面白みを感じていて、効果音を期待しているように手を開く前のところはじっと画面をみて待っているように変化を期待しているように見えました。



② 絵本 『わにわにのおふろ』

文:小風さち 絵:山口マオ 福音館書店

②「わにわには、お風呂がだいすきです」という語りから始まります。お風呂の準備をして、おもちゃで遊んで、シャワーを浴びて…という具合にお風呂の様子をかわいらしく描いたほのぼのする絵本です。お気に入りのロボットを湯船に浮かべて遊んでいる姿や、泡を飛ばして遊ぶ姿、シャワーを浴びながら歌を歌う姿などは、幸せそうです。

「ぽくん、ぽくん、ぽくん」とおもちゃを浮かべる音や、「ずる、ずり、ずる、ずり、じよるーん!」とお風呂に入る音、「ぷー、ぷー、ららら、ららら、ぷー、ららら」とあぶくを飛ばす音など、いろいろな擬音語が出てくることも聴きたい気持ちが高まります。



③カップを使った活動を紹介します。カップの中に色をつけたシャボン玉液を入れ、職員がストローでゆっくり吹くと、ぶくぶく泡が膨らんでいきます。ぶくぶくという音の面白さや徐々に大きくなっていく面白さ、泡が出てくる瞬間を期待し、じっとよく見えています。泡の弾ける動きやキラキラした感じも面白いようです。

傘袋を使った活動も紹介します。傘袋とは、濡



れた傘を入れる長細い袋のことです。カップの中に傘袋を入れ、袋に空気が入るようにカップの後ろからストローで吹きます。カップから徐々に袋が膨らんでいくと、じっと見えています。長く伸びていくと途中で折れたりゆらゆら揺れたりする動きも面白いようです。



お知らせ

新型コロナウイルス感染症の拡大による当施設の対策につきまして、聖隷三方原病院ホームページ内にて随時最新情報を更新しております。感染対策にご協力をお願いいたします。

フェスタおおぞら 中止のお知らせ

新型コロナウイルス感染拡大防止のため、利用者および参加者の安全を考慮し、今年度の開催を中止させていただきましたことになりました。

楽しみにしていただいていた皆様にはご迷惑をおかけしますが、ご理解の程よろしくお願ひ申し上げます。



	5月	6月
ショートステイ 利用者数 (延べ利用日数)	6人 (11日)	56人 (292日)
放課後デイ 利用者数 (延べ利用日数)	5人 (14日)	22人 (67日)
実習者数 (グループ数)	0人 (0グループ)	0人 (0グループ)